

登米地域の麦作技術情報 第3号

令和8年4月20日発行
Tel 0220-22-6127

宮城県登米農業改良普及センター
HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>



1. 気象経過

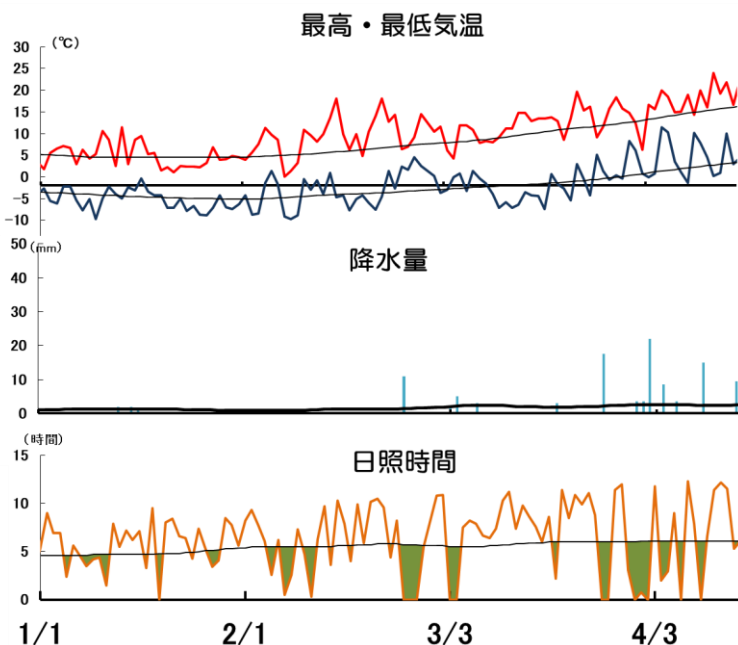
1月から3月の平均気温は平年並みで推移しましたが、4月上・中旬の平均気温は平年より2.5℃以上高くなりました。

また、1～3月の降水量は平年より少なく、特に2月は平年比23%と極端に少なくなりました。3月下旬から4月中旬にかけては降雨があり、4月上旬は平年比209%となりました。

【東北地方の1か月予報】(4/18～5/17)

令和8年4月16日 仙台管区气象台発表

- 平均気温は、高い確率60%です。
- 特に期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。
- 降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
- 日照時間は、少ない確率40%です。



2. 調査ほ及び管内の生育概要

4月13日現在の生育状況

品種	町域		播種日 (月/日)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉色 (SPAD)	幼穂長 (mm)	幼穂形成期 (月/日)
あおばの恋	豊里	本年値	11/6	46.5	1,190	43.1	5.6	4/3
		前年比・差	+10	132%	210%	—	+2.9	-1
【参考】 夏黄金	中田	本年値	10月下旬	30.9	1,045	—	5.3	4/5

※夏黄金はあおばの恋と調査方法が異なるため参考数値である。

あおばの恋の草丈、莖数、幼穂長は前年を上回り推移しています。(昨年は3月下旬の強風の影響で生育が停滞していましたが、一昨年と比較しても上回っています)

あおばの恋、夏黄金ともに、4月上旬に幼穂形成期に達しています。

今後の生育ステージ予測 (4月13日調査)

品種	町域	播種日 (月/日)	幼穂長 (mm)	予測日		
				減数分裂期 (月/日)	出穂期 (月/日)	開花期 (月/日)
あおばの恋	豊里	11/6	5.6	4/26	5/4	5/14
【参考】 夏黄金	中田	10月下旬	5.3	4/28	5/5	5/15

※出穂期等の推定は麦類生育ステージ予測シートver4.0による。

あおばの恋の出穂期は5月4日頃、夏黄金の出穂期は5月5日頃と推定されます。
 今後も気温は高く推移することが予想されており、出穂期が早まる可能性が高いです。ほ場をよく観察し、追肥や防除のタイミングを逃さないようにしましょう。

3. これからの管理のポイント 適切な追肥と防除の徹底

1) 追肥

減数分裂期追肥は1穂粒数を多くし、穂揃期追肥は千粒重、容積重、子実たんぱく質含有率を高めます。

小麦では品質を確保するために、減数分裂期と穂揃期に追肥を行いましょ。ほ場条件や品種、生育量、追肥の前歴などによって追肥量を調整しましょ。

大麦では穂揃期に追肥すると硝子率が高くなるなど品質が低下するので、追肥時期は減数分裂期までにしましょ。

☆追肥量の目安

品種	施肥量	単位: kg/10a		
		幼穂形成期 幼穂長が2~3mm	減数分裂期 幼穂長が3~5cm 止め葉の葉耳間長が±0mm 出穂10~15日前	穂揃期 出穂した茎が80%
大麦 シュンライ ミノリムギ ホワイトファイバー	窒素成分量	2~2.5	2~2.5	—
	現物量	硫安 (N: 21%)	9.5~12	—
		尿素 (N: 46%)	4.3~5.4	—
小麦 シラネコムギ あおばの恋 夏黄金	窒素成分量	2.5	2.5~5	2.5 (夏黄金: 5kg/10a)
	現物量	硫安 (N: 21%)	12	12 (夏黄金: 24kg/10a)
		尿素 (N: 46%)	5.4	5.4~10.8

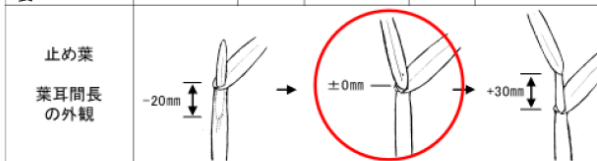
○減数分裂期の推定方法

減数分裂期の判断(大麦)

普及に移す技術第81号(参考資料)

幼穂長と葉耳間長(mm)

幼穂長	20	→	25	→	30
葉耳間長	シュンライ -30~-19	1~2日	-12~0	1~2日	+23~+39
ミノリムギ	-36~-23		-25~-15		+5~+18



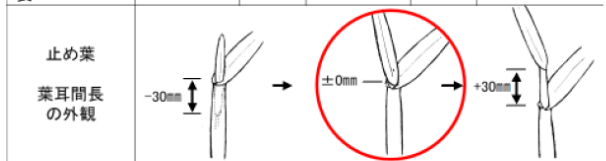
圃場で大麦の追肥作業の目安を判断するときは、葉耳間長±0mm以上に達した茎が全茎数の10~20%程度が適当(硬質粒を考慮)

減数分裂期の判断(小麦)

普及に移す技術第84号(参考資料)

幼穂長と葉耳間長(mm)

幼穂長	30	→	40	→	50
葉耳間長	シラネコムギ -30	1~2日	+3	1~2日	+30
ゆきちから	-35		±0		+25

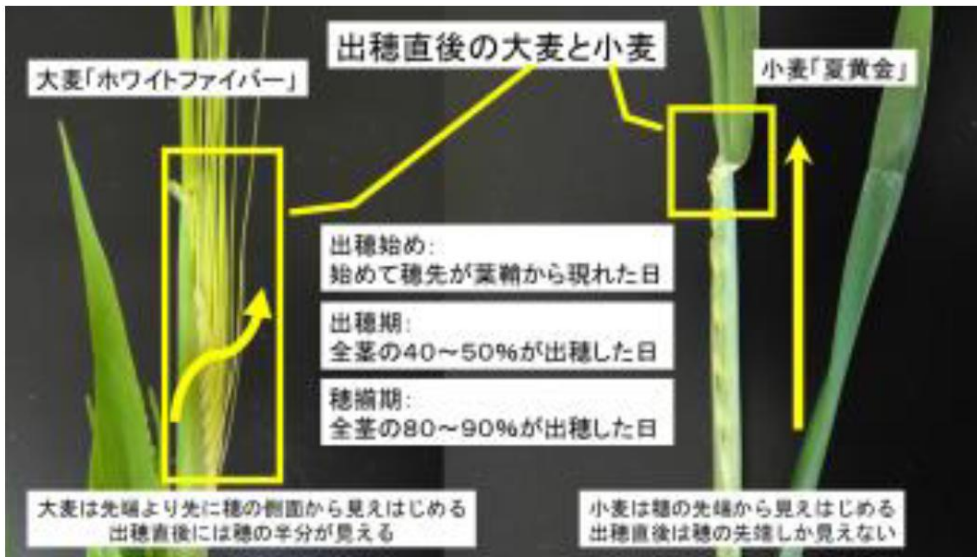


圃場で小麦の追肥作業の目安を判断するときは、葉耳間長±0mm以上に達した茎が全茎数の40~50%程度に達した時期が適当

大麦では葉耳間長±0cm以上に達した茎が全茎数の10~20%程度、小麦では葉耳間長±0cm以上に達した茎が全茎数の40~50%程度に達した時期が減数分裂期と推定されます。ほ場を確認し、適期追肥の判断に活用してみましょ。

○穂揃期

ほ場の全莖数の80～90%が出穂した日です。出穂の判断は下記写真を参照して下さい。

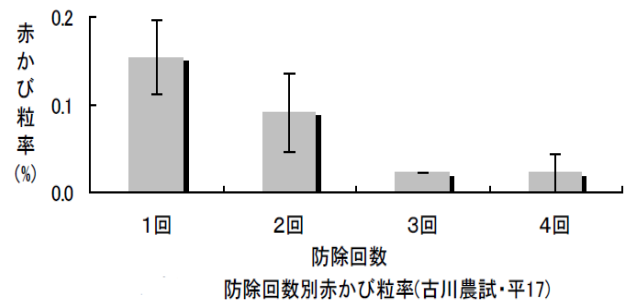


写真：出穂直後の麦の穂

2) 赤かび病の防除

赤かび病の防除は、基本は「2回防除」です。1回目は「開花始期～開花期」、2回目は「1回目の7～10日後」に防除を行うようにしましょう。特に開花期の防除効果は最も高いため、1回目の防除時期は厳守しましょう。雨が続く場合は追加防除も検討しましょう。

また、赤かび病に対する抵抗性が低い夏黄金は3回の防除を行いましょう（3回目は2回目の7～10日後）。



令和8年度 農作業安全運動（令和8年3月1日～令和8年6月30日）
徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策